

## たじみん昼話 78

### 学習は、好きにしてから取組もう

タレントの明石家さんまさんは、テレビ企画の出演を依頼されると、収録前にその企画を好きなことに変換することを心がけているそうだ。

さんまさんは、好きになることの重要性について次のように語っている。「努力は報われると思う人はダメよ。努力を努力だと思っている人は大体間違い。好きだからやっているだけよ、で終わっておいたほうがいい」

学習も、努力をしていると思っただけではだめなのだろう。学習そのものを好きになることが学習の第一歩で、学習を通じてその教科の好きな点を増やすことを心がけることが大切なのだ。

これが出来ると、学習が楽しくなって前向きに取り組むようになる。前向きに取り組むので、経験や知識が身になりやすくなる。結果として良い結果が出るようになるということだ。即ち知識が増えることで、創造性や発想が豊かになるため、さらに新しい学習方法を思いついて、最後は高みに達することが出来るということなのだ。

この成功体験のループは、人間を大きく成長させる。それは、達成感が自信を醸成し、その自信が行動力を生み出し、それらの積み重ねが新しい挑戦に対して躊躇せずに臨む心構えを作り出すからだ。

学習を「好きなこと」化することが学習効果を上げる根拠はここにある。

「学習なんて好きなところがない、嫌いな科目や分野があると」いう人もいるだろう。そんな状態の人こそ、それを乗り越えるために、実行して欲しいのが、物事を多面的・立体的な視点から捉え、どうすれば楽しくなるかを考える思考方法の実践だ。

例えば、つまらない分野だと思ったら、どれだけつまらない分野があるのか探すゲームだと捉え直して実行する。時間がないことを嘆かず、残り時間でどれだけ記憶できるかゲームに変換して、遊び心を持って取り組む等だ。

とにかく、学習の中で「自分の好きなもの」を探すことから始めることだ。

どんなにくだらないことでもかまわない。何かに好奇心を抱いたら、とりあえずそれを体験するのだ。そして取り組むべき自分の学習や課題にどう繋げるかを考えることだ。その積み重ねが新しい観点をもった学習を進めるための起爆剤となるからだ。

タレントの水道橋博士さんが「自分の好奇心に躊躇しない」と語った、言葉の真の想いも、そこにある。